

第1回 河内長野市総合計画審議会（全体会） 会議録

日時：令和6年10月5日（土）

午前9時30分から

場所：802 会議室

1. 開会

○市長あいさつ

市長：市が70周年を迎えたタイミングで、新たな思いで再スタートを切りたい。全国的に人口減少が進んでおり、河内長野市も同様の状況である。しかし、流出人口の数は収まってきている状況にあり、いくつかの開発団地では若年人口が増加傾向にあるなど、河内長野市は今まさにターニングポイントを迎えている。この時期に、いかに攻めの姿勢で市政を運営するかが極めて重要であり、来年度から組織の機構改革を行いたい。4つの局を作る中に、成長戦略局というセクションを作り、その中に営業部のセクションでふるさと納税を含む、外貨を稼ぐなど、本市の魅力を内外にアピールしたいと考えている。これまでの総合計画は冊子として作成し、多様な課題がかかっているものの、読んで納得感を得る市民は少ないのではないかと。市民が、市が抱える課題とその克服方法、市の方向性が見てわかるような1枚の資料として計画を作成してほしいと担当課に指示している。わくわくする気持ちや前向きな気持ちが計画に現れるような第6次総合計画を作り上げていただきたい。よろしくお願い申し上げます。

○委員委嘱、参加者紹介

○会長・副会長選出

→会長として嘉名委員、副会長として嶋田委員を選任。

○諮問

2. 議事

（1）河内長野市第6次総合計画の策定について（協議）

→事務局より、資料1・資料2に基づき以下の2点について説明。

- ・改定の経緯とスケジュール
- ・総合計画（基本構想）のイメージ

<質疑>

（特に議論なし）

（2）これまでの意見収集の経緯について

→事務局より、資料3に基づき、これまでの市民意見収集について説明。

<質疑>

安部委員：新しい計画を作成する際には前計画を参照し、前計画における狙いやあまりできなかったことを次計画でやるというやり方と、前計画にはこだわらずに初めから作成するやり方があると思う。行政としては継続性が大事であるため、前計画で残った課題を明らかにして取り組むのが通常かと思う。事務局では前計画をどのように扱うと考えているのか。

事務局：第 5 次総合計画では、毎年事業評価をしながら進めていた。最終総括も庁内で進めている。今回は義務化が無くなった中での「新しい総合計画づくり」を考えていきたい。これまでの 10 年とこれからの 10 年では大きくまちが変化すると思う。第 6 次総合計画を新しいまちづくりの計画として作りたいと考えている。これからのまちづくりについての議論をお願いしたい。

安部委員：現行計画にはこだわらない、ということか。

事務局：10 年前の状況とは大きく異なっているため、そこにこだわると見誤る恐れがあると思う。現状を捉えた上で新しく作っていきたい。

嘉名会長：行政計画としては毎年総括し、今後の施策の在り方は検討すると思うが、今後の総合計画では、もっと市民の方を向き、新しい形を模索しようということなのではないかと思う。まだ答えのないものに取り組むこととなるため若干の不安もあるが、是非皆さんと議論しながら良いものを作りたい。

(3) 河内長野市のまちづくりとターニングポイントについて

→事務局より、資料 4・5 に基づき、以下の 2 点について説明。

- ・これまでのまちづくり
- ・河内長野市の現状とターニングポイント

<質疑>

嘉名会長：増加しているというのは少し言い過ぎの気もするが、現在まちが変化しているのは確かで、ここで何か取り組むことで今までとは違うまちづくりができるのではないかと。様々な課題を抱える中で、課題を克服するだけではなく、市の魅力や強みを伸ばしていく中で総合計画を作っていきたい。今後何に取り組むかが伝わるような総合計画になればよい。

○部会の設置

→会長より、各部会の委員を指名。

→第1部会の部会長は松端委員、副部会長は中道委員を選出。第2部会の部会長は江川委員、副部会長は安部委員を選出。第3部会の部会長は嶋田委員、副部会長は三村委員を選出。

(4) 河内長野市のこの10年の発展について(部会ごとのワークショップ)

○三村委員からワークショップについての説明

・河内長野のこの10年を振り返り、よくなったことをリストアップし、共有する。

○各部会の発表

第1部会：よくなった点についていくつかグループ分けし、3つ選んだ。まず、環境面について、寺ヶ池が世界かんがい施設遺産に登録された。また、利便性について、自動運転クルクルが導入された。3つ目に地域について、高齢者が元気になったことが良かった点である。

第2部会：「まち」「行政・議会」「若者」「防犯・防災」「お店」「産業」「交通」「自然」「伝統文化」「生活」と様々なカテゴリーに分かれた。3つ取り上げたうちの1つ目が、「お店」で、長英軒の再開を挙げた。他にも、カレーの美味しいお店がある。スターバックスができた、など前向きな意見が沢山ある。次に「若者」について、熱い思いを持ったこどもが多い、気さくな人が多い、バイタリティをもった経営者が多い、など前向きな意見が出ている。最後は「まち」について、くろまろの郷に対する評価が高く、南花台の再開発、クルクルの導入などの意見が多く出た。

第3部会：まちづくり協議会の方が何名かいる関係で、まちや暮らしに関する意見が多く出た。まず、地域のつながりがよくなったということで、各自治会、町主体のイベント、駅前などのイベントなどを通じて、地域のつながりが深まったという意見があった。また、暮らしの中で、防犯が大阪府の中で10年間1位・2位をキープしているというのが良いと意見がでた。3つ目に教育の中で、ICT・ギガスクールなどの小中学校の取組がよくなったという意見があった。

3. 事務連絡

→事務局より、事務連絡について説明

4. 閉会

嘉名会長：世界で初めてのニュータウンがイギリスにある。1903年に誕生した。人口構成

は、今は高齢者が多いというわけではなくなっている。河内長野が、どうすればそのような環境に移行していくのか、というのが大切である。高齢化の状況も大きく変わってきており、現在日本で毎年 80 万人の人口が減っている。そのような問題に向き合うにあたり、マイナス思考であっても答えは出ない。前向きに考えていきたい。

(以上)